

新規事業採択時評価結果（平成26年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

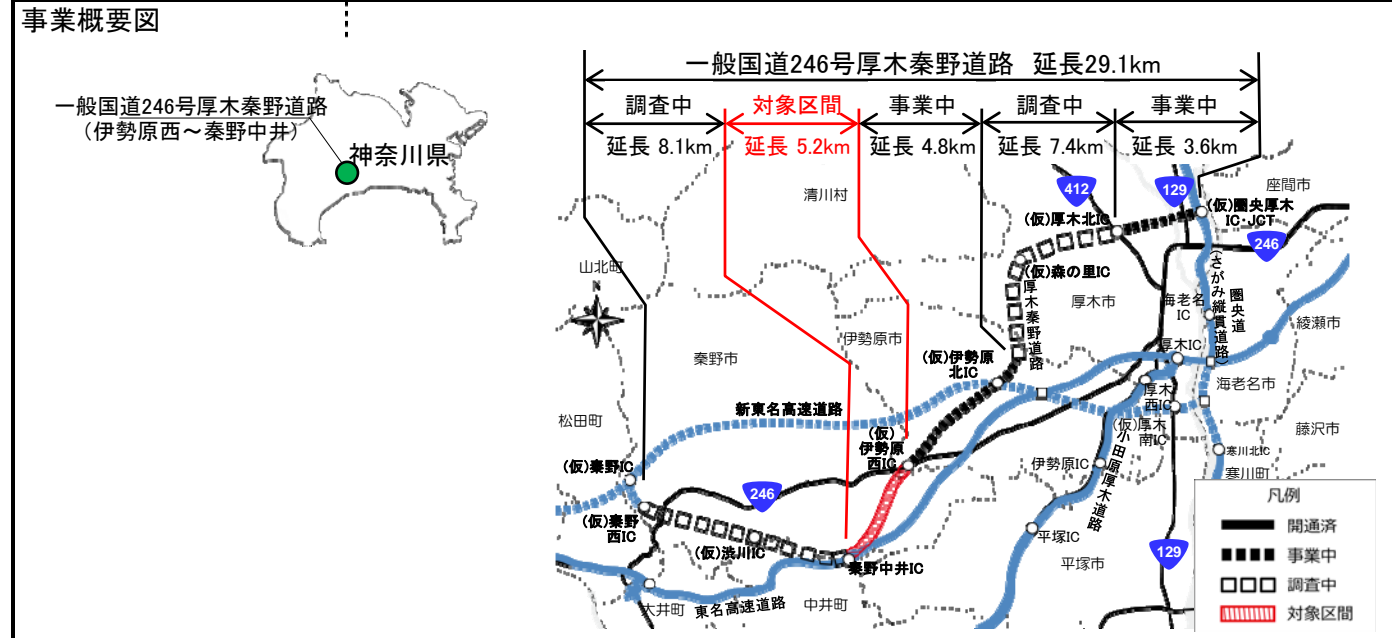
事業の概要

事業名	一般国道246号 あつぎはだの 厚木秦野道路（伊勢原西～秦野中井）	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自：神奈川県伊勢原市善波 至：神奈川県秦野市西大竹	延長	5.2km		

事業概要
厚木秦野道路は、国道246号のバイパスとして現道の交通混雑緩和を図るとともに、東名高速、新東名高速、さがみ縦貫道路と相互に連絡し、神奈川県県央地域において広域的なネットワークを構成する、厚木市中依知から秦野市八沢に至る全長約29kmの地域高規格道路である。

事業の目的、必要性
当該区間の整備により、事業中区間と一体となり、国道246号、東名高速、新東名高速を結ぶネットワークが形成され、国道246号の交通渋滞緩和及び交通事故減少等が図られる。

全体事業費：約200億円 計画交通量：約8,200台/日



関係する地方公共団体等の意見
【神奈川県知事】
一般国道246号厚木秦野道路は、東名高速道路や新東名高速道路、さがみ縦貫道路と一体となって、広域的な利便性の向上や地域活性化などに寄与する大変重要な地域高規格道路である。
並行する国道246号の交通混雑の緩和や交通安全性の向上などが期待されることから、地元自治体からの整備促進要望も大変強く、一般国道246号厚木秦野道路（伊勢原西～秦野中井）の新規事業採択・予算化について強く要望するとともに、早期整備が図られるようお願いする。

学識経験者等の第三者委員会の意見
・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件
・費用対便益：便益が費用を上回っている。
・手続きの完了：都市計画決定手続き完了（H8.6.11）

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.6	総費用：154億円 （事業費：139億円 維持管理費：14億円）	総便益：249億円 （走行時間短縮便益：246億円 走行経費減少便益：2億円 交通事故減少便益：1億円）	基準年 平成25年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.5（交通量 -10%）	B/C=1.8（交通量 +10%）	
		事業費変動	B/C=1.5（事業費変動 -10%）	B/C=1.8（事業費変動 +10%）	
		事業期間変動	B/C=1.4（事業期間変動 -20%）	B/C=1.8（事業期間変動 +20%）	
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	国道246号、東名高速、新東名高速をつなぐ新たなバイパスが形成され、国道246号（現道）の交通量が約3割減少し、渋滞が緩和。 〔混雑度の減少（一般国道246号 桜坂交差点）〕 現況 1.61（22,200台/日）→ 整備後 1.13（15,500台/日）〔約3割減少〕	
		事故対策	◎	交通量が約3割減少し、渋滞が一因で発生していた追突事故が約6割減少し、走行の安全性が向上。 〔追突事故件数（一般国道246号 桜坂交差点～堀川入口交差点間）〕 現況 236件/4年 → 整備後 90件/4年〔約6割減少〕	
	社会全体への影響	歩行空間	—	注目すべき影響はない	
		住民生活	—	注目すべき影響はない	
		地域経済	◎	国道246号、東名高速、新東名高速をつなぐ新たなバイパスが形成され、国道246号の交通量が約3割減少し、渋滞緩和されることで秦野地域からの自動車部品などの物資輸送の定時性や速達性が向上。 〔都心方向への物資輸送の所要時間短縮（秦野市内工業団地→下糟屋交差点）〕 現況 40分 → 整備後 33分〔約7分短縮〕	
		災害	○	東名、新東名をつなぎ新たなネットワークを構築することで、大規模災害時の救助・救援ルートとしての重要な役割を担う。	
		環境	— 注目すべき影響はない		
		地域社会	— 注目すべき影響はない		
事業実施環境		○	・都市計画決定手続き完了（H8.6.11） ・神奈川県知事、厚木市長、伊勢原市長、秦野市長より厚木秦野道路の早期事業化の要望の有り。		

採択の理由

費用便益比が1.6と便益が費用を上回っているとともに、都市計画決定手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。
また、当該区間の渋滞緩和や事故削減ならびに地域経済等への効果が期待でき、事業の必要性・効果は高いと判断できる。以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。